

②子宮内膜症

不妊症の一つの原因として子宮内膜症があげられます。子宮内膜症は妊娠を希望する女性にとって非常に厄介な存在になります。この二つはとても強く関連しています。以下子宮内膜症と不妊の関係について説明します。

子宮内膜症とは

子宮内膜が子宮内膜以外の場所に存在する状態を言います。月経時に生理と同様に卵巣内などで月経用の出血をきたすため卵巣内にう腫を形成します。また卵巣周囲に癒着を引き起こし、その結果生理痛をきたします。

子宮内膜症と不妊症

生殖年齢女性(20代～40代前半)の約10%に子宮内膜症が発症しています。

子宮内膜症患者の30～50%に不妊症に不妊症合併します。

同様に不妊症患者の30～50%が子宮内膜症を有しています。

子宮内膜症が不妊になる理由

①卵管、卵巣周囲癒着によるキャッチアップ障害

卵巣から排卵した卵子が卵管采に取り込まれるためには卵管と卵巣の位置が正しくないといけません。しかし内膜症は卵管や卵巣周囲に癒着を作るためこの2者の位置関係が離れてしまいます。その結果卵子をキャッチできなくなりキャッチアップ障害という状態になります。

②卵巣チョコレートのう腫が悪さをする

1)卵巣内に大きなチョコレートのう腫が出来ると、物理的に新しい卵胞が育つスペースが無くなり卵胞発育の異常をきたします。

2)チョコレートのう腫が邪魔して排卵しにくくなります。黄体化未破裂卵胞:LUFといった排卵障害になります。

3)排卵したとしても、のう腫サイドに卵管采があれば、卵子は卵管采に入れなくなります。

4)チョコレートのう腫が卵子の質を悪くしているという報告があります。

③腹腔内貯留液の影響

1)腹水中の「サイトカイン」が悪さをするといわれています。腹水中の「サイトカイン」が以下のような事をして悪さをするため妊娠しにくくなると言われています。

①受精卵発育異常、②精子運動能低下、③卵管機能の抑制。

2)プロスタグランジンの増加

3)マクロファージ活性の亢進

子宮内膜症合併不妊の治療法

不妊の大敵である内膜症をどのように治療していくかについて説明します。

主に以下の2通りの治療方法があります。

①薬物療法

薬物療法には以上の様な治療法があります。ただこれらの全ては排卵を止めてしまうため妊娠を希望する患者には使えません。あくまで内膜症による症状を抑える目的として使えるものです。

1) 低用量ピル

2) ディナゲスト

3) ダナゾール

4) GnRH アゴニスト

5) アロマターゼ阻害剤

②手術療法

妊娠を希望する場合は上記の薬物療法が使えないため自ずと手術療法が第一選択となります。現在では腹腔鏡下に手術を行う事が一般的になっています。腹腔内を観察して内膜症の初期病変があればそれを焼灼します。また癒着があれば癒着剥離も行います。それにより術後の妊娠率が有意に高くなるという報告があります。

まとめ

月経がある間は内膜症の完治という事はありません。そのため腹腔鏡手術後早期に妊娠を狙い(排卵誘発剤併用 AIH や体外受精)、出産後は上記の薬物療法で生理を止めて内膜症をコントロールして再発を抑えていく事が最善の治療法であると思います。